

普及指導情報

「台風第7号の接近に伴う農作物等被害対策情報について」

(第19号)

令和8年6月24日

佐賀県農業技術防除センター

(表題) 台風第7号の接近に伴う農作物等被害対策情報について

(担当) 農業技術防除センター 専門技術部

- 気象庁発表の台風情報によると、台風第7号が九州の南、北緯20度、東経124度の位置にあります。現在、1時間におよそ10kmの速さで北に進んでおり、6月27日に九州南部に上陸もしくは接近する予報となっています。
- このため、強風に伴う農作物被害対策を別紙のとおり取りまとめましたので、被害を最小限に抑えるための現地指導を徹底してください。

【参考：進路予想図（6月24日9時時点、気象庁ホームページより）】



I. 水稻

1. 生育ステージ

現在の水稻の生育ステージは下記のとおりである。

- 1) 極早期コシヒカリ : 出穂期
- 2) 早期作水稻 : 幼穂形成期
- 3) 山間早植え水稻 : 有効分げつ期～最高分げつ期
- 4) 普通期水稻 : 育苗期、移植期～活着期、分げつ始期

2. 技術対策

風速が15 m/s以上となれば、稲が強く震動し、水稻の茎葉の損傷が大きくなり、生育ステージによっては、穂数の減少や穎花の退化・受精不良、登熟低下、病害虫の多発、倒伏等により、千粒重が軽くなり、減収や品質の低下が懸念される。このため、次の対策を心掛ける。

(1) 極早期コシヒカリ

穂ばらみ期～出穂期は、最も水が必要な時期で呼吸量が大きく蒸散量も増大することから、不稔籾や屑米が増加し、被害が大きくなるため、湛水し深水にする。台風通過後は穂揃い期を迎えてから、深水から間断灌水に切り替える。

(2) 早期作水稻

幼穂形成期は、茎葉に損傷を受けた場合は根の老化が進むので、用水が確保できる場合、通過前は深水管理に努める。台風通過後は、土壌中に酸素を補給し根の活力を維持するため間断灌水を励行する。

(3) 山間早植え水稻

最高分げつ期を迎えている場合は茎葉の繁茂度が高く、水分の蒸散量が著しい時期である。茎葉が損傷すると根の老化が進むので、用水を確保できる場合、通過前は深水に湛水する。台風通過後は、土壌中に酸素を補給し根の活力を維持するため短期間の断水や、間断灌水を励行する。

(4) 普通期水稻

風による稲体の震動を少なくするため、できるだけ深水管理に努める。台風通過後は、新しい水と入れ換えた後、通常どおり生育に応じた水管理を行う。

育苗中で雨を伴わない強風に遭遇した場合、急性萎凋が発生しやすくなるため、苗の灌水に努める。一方で、大雨により苗が冠水しないように排水口の整備を事前に行う。

また、風速が15 m/s以上の強風が予想される場合は、苗の裂傷を防ぐために寒冷紗などを被覆する。ただし、寒冷紗の被覆期間が長すぎると苗の蒸れや徒長、さらに風雨による被覆材の吹き飛びが懸念されるため、しっかりと被覆材を飛ばないように対策を行い、台風接近の前後は速やかに寒冷紗の被覆・除去を行う。

3. 共通対策

(1) 通過前は深水管理を行うが、通過後は汚濁した水を排除し、新しい水と入れ替えるなど、水稻が回復するよう水管理に留意する。

(2) 水田に海水流入による浸冠水や潮風害を受けた場合は、直ちに排水し真水と入れ替える。出来れば掛け流しを行って除塩するか、少なくとも2～3回は水を入れ替え、生育回復に努める。

(3) 冠水した圃場は灌排水口の確認を行い、異常があれば補修を行う。

- (4) 中間追肥を行う圃場では、使用時期が遅れないように留意するが、被害の程度によっては減量する。多肥による過繁茂は病虫害の多発生を誘発するので、適正な肥培管理に努める。
- (5) 土砂の流入があった場合、流入した土砂の肥沃度にもよるが、堆積土 1cm では 10a 当たり窒素成分で 0.3～0.5kg 施用する。
- (6) 集中豪雨により、クリーク水との水位差がなく圃場へ逆流したり、深水状態が続くと、スクミリンゴカイの被害が拡大する恐れがあるため、用排水の管理をきめ細かく実施するとともに、薬剤による防除を検討する。
- (7) 麦わらをすき込んだ圃場で、麦わらが吹き寄せ等により稲株を押し倒したり、稲株に覆い被さっている場合は、レーキ等で取り除く。併せて用排水の管理をきめ細かく実施し、豪雨による麦わらの浮き上がりを防止する。
- (8) 海外飛来性害虫のセジロウンカの飛来が見られているが、大量飛来やトビイロウンカの飛来も考えられるので地域を巡回し、発生の把握とその後の対策を講じる。
- (9) 通過後は茎葉の損傷で、白葉枯病等が発生しやすいので常発地では予防防除に努める。

Ⅱ. 大豆

1. 生育ステージ

- (1) 早播き 生育初期
- (2) 普通期 播種前

2. 技術対策

- (1) 大豆は湿害に弱いので、早播きされている圃場では速やかに排水できるよう、排水口と溝をつなぎ、排水路を整備しておく。
- (2) 大豆は播種後 2 日間の大雨や浸水で発芽率を著しく低下させるため、播種前の圃場では無理して播種しない。

Ⅲ. 野菜

1. 生育ステージ

- (1) 促成イチゴは、次作に向けた育苗期である。
- (2) 促成イチゴ・ナス・キュウリ・トマトは、次作に向けた土壌消毒・土作り期間である。一部農家で、収穫延長や雨除け夏秋作型で栽培されている。
- (3) 夏秋ナスや夏秋雨よけピーマンは収穫期となっている。
- (4) 半促成長期どりアスパラガスは夏芽の収穫期となっている。
- (5) 雨よけ野菜の主要品目であるハウレンソウとコネギは、播種時期の違いにより生育ステージはさまざまである。

2. 事前対策

<イチゴ>

- (1) 苗には薬剤散布を行い、立枯病を予防する。

- (2) 薬剤散布のあと茎葉が乾燥したら、寒冷紗等でべたがけを行い、寒冷紗が吹き飛ばないように直管パイプやブロック等で押さえる。
- (3) 土壌消毒中で密閉しているハウスはハウスバンドを締め直す。
- (4) 育苗床は排水溝を確認し、緊急時のために強制排水の準備を行う。
- (5) 加温機、自動開閉装置等の機材や関連施設の対策も十分に行う。
- (6) タンクに清水を汲んで置き、台風通過後の水洗や防除等に備える。

<施設ナス・キュウリ・トマト等>

- (1) 栽培中のハウスや土壌消毒中のハウス、硬質ビニルの施設は密閉し、風が強くなったら換気扇を回す。
- (2) 換気扇を回す場合は、停電等に備え発電機を準備する。
- (3) 密閉するハウスは、ハウスバンドを締め直し、ビニルの破損部があれば修理しておく。また、妻付近の天井部に防風ネットや海苔網等を被覆する。
- (4) 栽培が終了している、または土壌消毒等を行っていないハウスは、早めにビニルを除去する。
- (5) 他はイチゴの(5)、(6)に同じ。

<雨よけ野菜>

- (1) アスパラガスやコネギ等収穫中の品目は、収穫できるものを早めに収穫する。
- (2) 栽培中のハウスは、防風ネットや寒冷紗等で被覆して耐風性を強化する。
- (3) ハウスバンドやらせん杭を補強し、ビニルの破損部があれば修理しておく。
- (4) 台風接近時には妻とサイドのビニルを下ろし、風が吹き込まないようにする。
- (5) アスパラガスは、支柱が抜けやすいよう確認するとともに、ネットをしっかり張って茎葉の損傷をできるだけ少なくする。
- (6) アスパラガスは、茎葉損傷等による草勢低下を防ぐため、事前に追肥を行っておく。
- (7) 播種予定のコネギやハウレンソウは、通過した後、直ちに播種できるように古ビニル等のべたがけを行う。
- (8) 排水溝の詰りがないかを確認し、緊急時のために強制排水の準備を行う。
- (9) タンクに清水を汲んで置き、通過後の水洗や防除等に備える。

<露地夏秋野菜>

- (1) 収穫できる果実は、早めに収穫する。
- (2) 支柱や防風ネットの補強を行う。
- (3) 茎葉を支柱に誘引し、風雨による損傷を少なくする。
- (4) マルチ等は、飛ばないようにしっかり止めておく。
- (5) 他は雨よけ野菜の(8)、(9)に同じ。

<その他>

- (1) セルトレイやポット等で育苗中のものは、倉庫等に搬入する。
- (2) 定植直後の圃場は、不織布等のべたがけを行う。

3. 事後対策

<イチゴ>

- (1) 通過後、直ちにべたがけしていた寒冷紗等を取り除く。
- (2) 育苗床が滞水している場合は、直ちに強制排水を行う。
- (3) 茎葉の損傷等により病害の発生の恐れがあるので、薬剤散布を行う。また、草勢回復のために同時に葉面散布剤を混合する。
- (4) 茎葉が汚れた場合や潮風害の恐れがある場合は、直ちに清水を散布して洗い流す。
- (5) 苗の傷みがひどい場合は、直射日光を防ぐため寒冷紗等を被覆して、草勢の回復を図る。
- (6) ハウス周囲まで滞水している圃場では、強制排水により早急に排水を図る。

(7) 太陽熱土壤消毒中に浸冠水したハウスは、地温の低下による消毒効果の低下が懸念されるので、消毒期間を延長する。

(8) 薬剤による土壤消毒中に浸冠水したハウスは、効果の低下が懸念されるのでビニルを被覆したままの消毒期間を延長し、地温上昇による消毒効果を期待する。

<施設ナス・キュウリ・トマト等>

(1) ハウス周囲まで滞水している圃場では、強制排水により早急に排水を図る。

(2) 栽培期間中に浸冠水したハウスは、根痛み等による草勢低下を防ぐため、液肥や葉面散布等を行う。

(3) 太陽熱土壤消毒中に浸冠水したハウスは、地温の低下による消毒効果の低下が懸念されるので、消毒期間を延長する。

(4) 薬剤による土壤消毒中に浸冠水したハウスは、効果の低下が懸念されるので、ビニルを被覆したままの消毒期間を延長し、地温上昇による消毒効果を期待する。

<雨よけ野菜>

(1) アスパラガスは、ビニル破損により風雨が降り込んだ場合、茎枯病が発生する恐れがあるので必ず薬剤防除を行う。

(2) 破損したビニルはすぐに除去して新しいビニルを被覆し、茎葉がその後の降雨に当たらないようにする。

(3) 軟弱野菜類のべたがけを行ったところは、直ちにはずし、寒冷紗等で天井を被覆する。

(4) 倉庫等に移動した苗は、寒冷紗等で被覆したハウスに移す。

<露地夏秋野菜>

(1) 風雨によって作物に損傷が生じている場合は、痛んだ茎葉や果実を除去する。

(2) 雨水が畦間に湛水している場合は、直ちに排水し、マルチを畦の肩まで上げ、過湿による根傷みを防ぐ。

(3) 支柱の傾きや誘引資材の損傷があれば補修を行う。

(4) 茎葉の損傷等による病害発生を防ぐため、低濃度の薬剤散布を行う。また、草勢回復のため同時に葉面散布剤を混合する。

IV. 花き

1・生育ステージ

<施設栽培>

(1) 電照ギクは、育苗期から出荷期のものがある。

(2) バラは収穫期で一部植え替え育苗中のものもある。

(3) カーネーションは定植期であり、中山間地は出荷期となっている。

(4) トルコギキョウは育苗期で、中山間部では生育期から出荷始めとなっている。

(5) ホオズキ、シンテッポウユリは生育期から出荷期のものがある。

<露地栽培>

(1) キク、ホオズキ、シンテッポウユリ等は生育期である。

2・事前対策

<施設花き>

(1) ハウスの被害を最小限度にするために、次のとおり点検補強を行う。

① ハウスバンドの固定確認を行い、伸びているものは締め直す。

② 天井ビニルを防風ネットや海苔網等で押さえる。

③らせん杭の設置間隔や機能が十分であることを確認し、らせん杭の強度を高める。

④栽培中のビニルハウスや硬質ビニルの施設は密閉し、風が強くなったら換気扇を回す。

⑤栽培が終了している、または土壌消毒等を行っていないハウスは、早めにビニルを除去する。

(2) タンクに清水を汲んで置き、台風通過後の水洗や防除等に備える。

<露地花き>

(1) 倒伏・茎曲りを防止するため、ネット上げやネット及び支柱の固定を行う。

(2) 圃場の周囲に排水溝を掘り、排水条件を良くする。

(3) 収穫できるものは早めに収穫する。

(4) タンクに清水を汲んで置き、台風通過後の水洗や防除等に備える。

3・事後対策

<施設花き>

(1) 破損したハウスでは修理を早急に行い、雨がかからないようにする。

(2) ハウス内に水が入った場合は、早急に排水を行う。

(3) 倒伏した場合は、速やかに元に戻し、ネットや支柱で固定する。

(4) 殺菌剤を早急に散布し、病害の発生を抑える。

(5) 液肥の葉面散布を行い、生育の回復を図る。

(6) 急激に天候が回復した場合、強光による葉焼けを防止するため、光量に応じた遮光資材の展張などきめ細かな対応に努める。

<露地花き>

(1) 倒伏した場合は、速やかに元に戻しネットや支柱で固定する。

(2) 圃場に水が溜まった場合は、速やかに排水を行う。

(3) 殺菌剤を早急に散布し、病害の発生を押さえる。

(4) 液肥の葉面散布を行い、生育の回復を図る。

(5) マルチ下の土壌が過湿状態にあるときは、雨が上がってからマルチを剥ぎ、畦肩を露出させ土壌を乾燥させる。

V. 果樹

1. 生育ステージ

<カンキツ類>

(1) 露地カンキツ類は、果実肥大期で、強風による風傷果が発生しやすい時期である。

(2) ハウスミカン、被覆・加温時期の違いにより収穫の終了した園から果実肥大期の園とさまざまである。

<落葉果樹類>

(1) ハウスナシ、ハウスブドウは収穫前～収穫中である。

(2) その他の落葉果樹（ブドウ、カキ等）は、果実肥大期であり、強風による落果や風傷果が発生しやすい時期である。

2. 事前対策

<露地カンキツ類>

(1) 強風により枝葉や果実が傷つき、かいよう病が発生しやすいため、1～7日前に銅水和剤等の散布を行う。

- (2) 高接ぎ更新樹や開張性の強い品種では、強風による枝折れが心配されるため、支柱を立てて枝を誘引、固定する。また、幼木は頑丈な支柱を立てて誘引・固定し倒伏を防止する。
- (3) 大雨による土壌流亡や土砂崩れを防ぐため、園内外を巡回し集排水溝を点検する。
- (4) マルチ被覆園では圃場を点検し、マルチ押さえを増やすなど、風により被覆資材が飛ばされないようにしておく。
- (5) 風向きによっては潮風害が発生する恐れがあるので、散水のための用水を確保しておく。

<施設栽培>

- (1) ハウス全体を点検し、破損個所の修理、ハウスパンドの締め直しを行う。
- (2) 強風時にはハウスの強度を高めるため、完全にハウスを密閉し、換気扇を作動させてハウス内を負圧にし、ビニルのあおりを少なくする。
- (3) パイプハウスの強度は一般に風速30m/sとされている。風が強すぎる場合にはハウス本体を守るために、ビニルを除去する。

<落葉果樹類>

- (1) 成熟期を迎えている樹種で収穫可能なものは収穫する。
- (2) 果樹棚の点検を行い、破損個所等の補修を行っておく。また、上下のあおりで、果実のスリ傷や落果が増えるため、パイプによる補強やアンカーを増設し引き下げを行う。
- (3) 枝葉の損傷や落果防止のために、結果枝を誘引・固定する。
- (4) 幼木は頑丈な支柱を立てて誘引・固定し倒伏を防止する。
- (5) 強風雨によりカキの炭疽病等の発生が増加するため、通過前に薬剤防除を行う。

3. 事後対策

<共通>

- (1) 台風通過後にカメムシの飛来が急増する場合があるので、飛来を確認したら早急に防除を行う。

<露地カンキツ類>

- (1) 潮風害の発生が懸念される場合は、台風通過後なるべく早く2t/10aの真水を散水し、付着した塩分を洗い流す。
- (2) 強風や土砂崩れ等で倒伏した樹は、早急に起こし支柱を立てて誘引・固定する。また、根元を敷きワラ等で保護して樹勢の回復を促す。
- (3) 強風で折れた枝は早急に元に戻し、ヒモ等で結束する。枝折れがひどい場合は切り落とし、傷口に癒合剤を塗布する。
- (4) マルチ栽培で被覆資材がはがされた場合は、通過後直ちに修復するとともに、晴れ間をみて資材を開放し土壌の乾燥に努める。

<施設栽培>

- (1) ハウス施設が損壊した場合には、早急に修復する。
- (2) ハウス内に雨水が浸入した場合には、園外への排水を図る。また、ハウス内の湿度を下げるため、換気を十分に行う。
- (3) ハウスみかんでは褐色腐敗病が発生する恐れがあるため、通過後薬剤散布を行う。収穫が近い場合には腐敗防止剤を散布する。

<落葉果樹類>

- (1) 落果した果実はヤガ等の吸汁害虫が誘引されるため、集めて園外に持ち出す。
- (2) 果樹棚や防風ネット等の施設の損傷は早めに修理する。

- (3) 倒伏した樹は早急に立て直し、根元を保護して樹勢の回復を促す。
- (4) 強風によって枝葉が損傷しており、カキの炭疽病等を始めとした病原が感染しやすくなっているため、通過後は早急に薬剤散布を行う。

VI. 茶

1. 生育ステージ

- (1) 二番茶摘採の後半にあり、平坦部では摘採がほぼ終了し、中山間部での摘採が始まっている。

2. 事前対策

- (1) 排水が円滑に行われるよう、園内外を巡回し集排水溝を点検、整備する。
- (2) 摘採適期を迎えている茶園の摘採を優先・完了させる。被覆を行っている茶園では、強風により被覆資材がズレたり、飛散する恐れがあるので、台風の勢力や進路予想に十分注意し、早めの被覆資材の撤去を検討する。
- (3) 幼木園はマルチのおさえを確認し、強風でマルチがはがれないようにする。
- (4) 風向きによっては潮風害が発生する恐れがあるので、散水のための用水を確保しておく。

3. 事後対策

- (1) 潮風害の発生が懸念される場合は、通過後なるべく早く用水を散水し、付着した塩分を洗い流す。
- (2) 防霜施設の傾きや、幼木園のマルチのはがれや株の浮き上がりを点検し、元の状態に戻す。

VII. 畜産

1. 事前対策

<畜舎・家畜>

- (1) 畜舎及び堆肥舎などの点検・整備を行い、風雨の侵入を防止する。
- (2) 畜舎周辺の排水溝を清掃し、排水対策を行う。
- (3) 畜舎周辺の施設、飼料タンクなどが暴風雨で飛ばないように固定を強化する。
- (4) 庇陰樹の整枝、板、スレート材などの飛来原因物を整理する。
- (5) 夜間の突発的作業や停電時に備えて、作業手順や道具の整理・整頓、自家発電装置、照明器具などの準備を行う。
- (6) 停電時には井戸ポンプが止まり家畜の飲料水が不足することがあるので、ポリタンク等に予備飲用水を確保する。(1頭(羽)当たり必要量(L/日):50(肥育)~150(乳牛)、豚:30、鶏:1)

2. 事後対策

<畜舎・家畜>

- (1) 家畜の観察を行い、異常家畜の早期発見に努める。また、通過後の高温対策のため換気等に十分気を付ける。
- (2) 畜舎に雨水などの侵入があった場合は直ちに清掃した後、逆性石鹼500~1000倍液を1~2L/m²噴霧するか消石灰を散布して消毒する。また、新鮮な飲料水、腐敗やカビのない飼料を確保し、敷料は、新しいものに交換する。
- (3) 速やかに被災状況を確認し、被害施設の補修、修繕や家畜の事故につながる飛来物などの除去を行う。また、電気配線等の切断や漏電に注意する。

